

## 「アメリカセンダングサ (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

頭花植物(花を咲かせて種子をつくる植物)は、その種子を拡散させるために、さまざまな工夫(進化)をしてきた。およそ思いつく方法をあげてみよう。( )の中は、その例である。

- ・こぼれ落ち型(アサガオ)
- ・鞘(さや)冬越し型(レンゲショウマ)
- ・はじけ飛び型(ホウセンカ)
- ・ころがり型(ブナ科のドングリ・オシロイバナ)
- ・綿毛型(ススキ・ヤナギラン)
- ・ケセランパサラン型(ガマ)
- ・グライダー型(アルソミトラ)
- ・ひっつき虫型(オナモミ)
- ・海流運搬型(ヤシ)
- ・動物や昆虫の糞混入型(ノブドウ)



このように、道端のちょっとした空地にも繁茂している。今の時期(晩秋)だと、花、熟す途中の種子、熟した種子のすべてを観察・採集できる。



中には厄介な種子もある。ひっつき虫型の代表格が帰化植物の「アメリカセンダングサ」*Bidens frondosa*である。キク科の一年草で、道端や空き地など、どこでも見られる、ごくありふれた雑草である。夏～秋に黄色い花を咲かせるが、徐々にたくさんの種子を形成する。その種子が厄介者なのだ。



「アメリカセンダングサの花」10月下旬 / 北軽井沢

花がしぼんだあとは、ごく普通のキク科の植物と変わらない。このまま綿毛をつくって、飛んでいきそうに見える。しかし、しばらくたつと、写真の右のように、「ウニ」のようなトゲトゲの姿に変化する。種子の先端に2つの「トゲ」がある。この「トゲ」がクセモノなのだ。この写真の状態なら、まだ柔らかく、枝の中心にしっかりくっついているので、何も悪さをしない。しかし熟して硬くなると・・・袖やズボンに着く着く！しかも簡単にとれない！ (つづく)